

卒業六十周年記念同期会報告（7回）

日時…平成二十七年十一月十日（日）

十三時～十五時半（二次会十七時まで）

会場…「クルーズクルーズ」八階

出席者…八十九名（旧師）招待見合せ）

次第…物故者報告・黙禱、母校と同窓

会近況説明、入学時クラス別記念写真

映写、校歌ほか全員斉唱。

二次会も同会場で歓談、約半数が参加。

* * *

7回生同期会は取壊し直前だった朝

陽同窓会館で二〇〇二年秋に開催の後

〇五年春以降の十年間は二年ピッチで

開催してきた。喜寿の前も秋で、今

回も秋の開催となった。以下は幹事団

の立場からの反省記録のご紹介。

〇御苑散策…昼前の短時間、新宿御苑

での散策を呼び掛けたが、朝方の雨の

せいか定刻参加七名とは残念だった。

〇恩師招待見合せ…五十周年には健在

の五先生がご出席くださった。十年後

の今回は唯一人N先生が健在と承知

しながらご高齢を慮ってご案内を遠慮

した所、直前の担任クラス会にはご機

嫌麗しく出席されたと聞き幹事愕然。

〇会場設営と歓談の兼合い…当初計画の

「立食パーティ」では椅子が五十までしか入らないと判明。高齢ゆえの卒倒者も出かねないので、着席方式に変更。ただしテーブル指定は「歓談」に入ったら無効とし大いに交流願いたしと冒頭に呼び掛けた。これは会の盛上り・大賑いの最大要因となったが、前半の報告・説明の時も各所で話が弾み、蜂の巣状態。入学記念写真を映写したときだけ一瞬やや静まったが、その写真自体がまた火種になったごとく、以後騒ぎが収まることはついになかった。途中から近況等スピーチを募った進行は話者の隣にいても聴き取れないという悲惨な結末。誰かが名言を吐いていた「この歳になつたら、みんな話を聴きに来るのじゃない。しゃべりたさ・聴いてもらいたさだけさ。耳も遠いし」。幹事会でも既に「二時間くらいしゃべり尽くす方向」と合意していたのにスピーチにこだわったこと、それこそがまさに要反省か。

〇音響効果の工夫不足…立食方式に準ずる会場づくりで厨房との間仕切りを撤去していたので、マイクの音が吸われてしまったようだ。ただ、飛入り氏が突如カンツォーネを歌いあげた時は会場が圧倒されたことは特記しておく。

〇校歌ほか斉唱…今回もまず国民的ナツメロ「青い山脈」。在学中の流行に限定すると「君の名は」「テネシーワルツ」やひばりのものになるが「みんなで歌う」にはやはりこれしかない。歌詞は二曲とも映写したが、肝心の校歌の楽譜を用意せず指揮者に叱られる失敗も。

◎最後の一本締めが勢い余って三本になったのも御愛嬌。反省は反省として、多くの参加者の反響から概して盛会だったと厚かましくも内心自讃している。（当番3C T M・H M・Y K）